

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】注文番号:500252 1口1000円～にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

東海第二原発差止訴訟裁判報告 & 決起集会を開催しました！



2023年7月28日(金) 10時～12時半 常総生活協同組合組合員室 組合員21人参加。

～当日の会の流れ～

- ◎参加者自己紹介
- ◎東海第二原発差止訴訟を始めた経緯の説明(原告団共同代表 大石 ※元常総生協副理事長)
- ◎脱原発と暮らし見直し委員会の12年の活動紹介(脱原発とくらし見直し委員会 高橋)
- ◎原発事故後の生協の活動12年のまとめの報告(商品部統括 柿崎)
- ◎出席者同士の意見交換

○当日の感想① (脱原発とくらし見直し委員会 高橋委員長)

久しぶりの対面イベントでした。数年ぶりに顔を合わせた参加者もいて近況報告もつきませんでした。命や食を守るため原発に反対していく決意を新たにするとともに、この決意を次世代に継承する必要を再認識しました。生協内での初めての裁判報告会でしたが、今後も継続してほしいと思いました。

※次ページに続く

2023年8月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」ゴンタで遊ぼうin流星台プレイパーク 夏休みは8/3, 8/4, 8/18, 8/19開催。時間:9時30分～13時30分 ・8/12(土)～15(火)夏季休業 ・8/16(水)～18(金)変則供給 ・8/26(土)役職員研修会 ・8/27(日)歴史講座 夏の遠足(横浜市)	・8/26(土)STOP!東海第二原発の再稼働 いばらき大集会

○当日の感想② （専務理事 伊藤博久）

～裁判を始めたキッカケは「後悔と反省から」スタート～

JCO臨界事故から12年後に起きてしまった福島第一原発事故。運動として続けていく事ができなかった事、発信し続けることができなかった事、私たち常総生協が東海第二差止訴訟の取り組みを始めたキッカケは、反省と後悔から始まりました。

2011年の総代会決議文にてその思いが込められていますので、ご紹介します！



決 議 文

人々の協同と自立による復興と大地再生を誓い、
核と原子力のない安心の社会に向けて



2011年春、東日本大震災と東電福島第一原子力発電所の事故は、私たちの暮らし・意識・社会を問い直すことを私たちに課しました。

わたしたちの健康は、「いのち育む食」を提供してくれた生産者のおかげです。これまでに感謝し、気持ちの支えも含めて被災と放射能汚染にあった生産者の復興・再生に具体的に協力し、共にこの困難を乗り越えていくことが地域の人たちの自立の連環につながり、格差や差別のない公正な日本社会、世界に連なることを願います。

生命の糧を育む大地と海の放射能汚染の除去・低減・再生を、生産者と共に取り組みます。この相互の努力こそが共に願ってきた「食の安全」への道です。

原子力発電は、生命や自然、食の安全とは共存できないと同時に、私たちの便利なくらしが他の犠牲の上に成り立っていたことをも気付かせました。

放射能汚染は「食の安全」を脅かし、消費者と生産者の信頼の絆さえも破壊して、人々を不安と苦渋に落とし入れました。

「安全神話」を推し進めた国の責任、当事者である電力会社の責任は最後まで問われますが、原子力発電に正面から向き合っていなかった私たちの責任も免れません。

私たちは12年前、東海村JCO臨界事故の際「国のエネルギー政策の転換を求める声明」を決議していました。また、組合員からの六ヶ所核燃料再処理施設、上関原発への問題提起があったにもかかわらず、粘り強い運動にしてゆく努力を怠りました。

これ以上、次世代に禍根を残さないために「原子力に頼らない社会」をつくるために組合として、個人として、多くの市民とつながりながらできる行動を提案します。

まずは国がすべての原発を廃炉にすること、国・企業が放射性廃棄物処理も含めて責任を持って事故・事後処理、賠償を行うことを求めます。私たちの世代の責任において最後まで見届けなければなりません。

同時に私たちが、資源浪費の大量生産と消費のあり方を変え、何が本当に必要なものかを判断し、具体的な運動・活動をすすめます。原発をなくしても私たちが安心して平和に暮らしてゆくために、多くの人々と協力し、暮らし・社会を変えてゆく具体的な行動を起こすことをここに決意します。

この決議を言葉に終わらせることなく、継続して努力することを誓い、全組合員に呼びかけます。

2011年6月11日 常総生活協同組合第38回総代会 参加者一同

この会を通して、粘り強い運動をしていく事、次世代へ継承しながら続けていく事の大切さを再認識できました。

原子力はとても危険で、廃炉にするにも時間がとてもかかります。私はこの会を通して、「原発反対」と同時に、「くらし見直し」の部分が今後、とても重要になってくると思いました。電気代値上げが起きている現状、生活苦の国民が増えるのは目に見えています。

「原発を動かせば安くなる」「反対派が邪魔している」という声も聞こえてきます。実際、生協の方に、そういった嫌がらせの問い合わせが来ています。

会の中で「歴史は繰り返される」「忘れてしまう」という話がありました。そもそも私たち人間のくらしを見直さなければ、同じことの繰り返しになりますし、東海第二原発で事故が起きてしまった場合は、首都圏の全域にまで被害が及ぶことは想定できます。これから生まれてくる子ども達に被害を与えてしまうかもしれないというリスクや、何の罪もない子ども達に責任はなく、大人の私たちの責任と考えます。せめて、子ども達が放射能で健康被害を受けてしまう事だけはあってはいけないと考えます。また、放射能の問題だけでなく、そもそも環境にも負荷を与えすぎている事も考えないといけないと思います。

こうした問題、課題を今の経済界含めて「原発推進」への方向転換に対して、今一度、12年前を思い出す事が必要だと思いました。しかし、世の中は「今だけ、カネだけ」の風潮があり、根本は反省と後悔が薄いのだと思います。

決議文に「私たちが、資源浪費の大量生産と消費のあり方を変え、何が本当に必要なものかを判断し、具体的な運動・活動をすすめます。原発をなくしても私たちが安心して平和に暮らしてゆくために、多くの人々と協力し、暮らし・社会を変えてゆく具体的な行動を起こすことをここに決意します。」と掲載されていますが、いまが、その転換の大事なタイミングで、くらし方を変えていく事が大切だと思います。この具体的な取り組みを皆で協議し、生活協同組合として地域を変えていく行動を発揮していく事が必要だと思います。是非、考えて行きましょう！

現在、常総生協の職員の半分は当時の経験をしていない職員です。当時の様子を伝え、学ぶ場を作り、常総生協の職員内でも継承できる環境を作って行きたいと思います。

第126回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2023年7月26日(水) Web会議 14時～15時 組合員6人参加。

Zoomを利用しWeb会議で開催しました。生協放射性物質検査10年のまとめなどについて情報交換・協議しました。

◎生協の放射性物質検査10年のまとめは、原発事故後の生協の活動12年のまとめとすることになりました。目次を作りまとめの方針を決めました。活動の年表を冒頭に載せ実施内容が1枚でわかるようにします。

★次回は、2023年9/20(水)14時～15時Web会議の予定です。Web会議には生協からも参加できます。8月はお休みです。

委員会はどこでも自由に参加できます。

参加希望の場合は常総生協HPの「組合員専用お問い合わせ」フォームから事前にご連絡ください。

理事会よもやま通信

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

班配達のススめ ～基礎編「班配達って？」～



常総生協が好きだー！

春のおしゃべり会や総代会で、「近所に組合員さんがいらっしゃっても全くわからない」「組合員同士の交流を」等の声がありました。かつての常総生協は「班配達のみ」で、ご近所同士、気の合う仲間同士が集まって、【共同購入】を行っていました。一九九〇年代、ライフスタイル（家族構成・女性の働き方）の多様化に伴って、生協も個人宅配（個配）が主流になり、二〇〇三年に個人情報保護法が施行されると、さらに、地域においても近くの組合員に気がつかず、組合員同士の交流が難しくなりました。また、三〇代～四〇代の組合員は加入した時から個配ですので、「班配達」の存在自体を知らない方もいらっしゃると思います。そして、「あるならやってみよう」とのご意見もいただきました。まずは班配達を知ることから…そして、班配達を通して組合員同士が知り合うきっかけになれば、と考へ、組合員さんの協力得て、班配達の様子を伝えていきます。

★班配達とは？

二名以上のグループ（班）で、荷受けを一カ所で行います。

ご近所さん同士、同じ職場の方々、仲良しの友達などで班を作り、供給配達の時間にあわせて、決まった場所で班全員の注文した商品を受け取ります。「決まった場所」は班の中で「当番」を決め、

当番の方の自宅の車庫などを利用して、

受け取るケースが多いです。班全員分の

商品を受け取ったら、個々に仕分けして、

自宅に持ち帰ります。

※参考までに、現在の個配と班配達の数を書記しました。

★個配	3025 人
★班配達	232 人
2人班	63 班
3人班	20 班
4人班	7 班
6人班	3 班

【班配達の良いところ】

★組合員の場合

- ・配達料が五〇円（個配は一〇〇円）
- ・梱包資材（シッパなど）をその場で返せるので、保管しておく場所がいらぬ
- ・ドライアイス、蓄冷材などが節約できる
- ・一週間に一度は、必ず班のメンバーに会うことができる

★生協（職員）の場合

- ・配達件数が減るので、ガソリン代の節約、排ガスなどによる環境汚染の軽減、働く時間の短縮になる
- ・シッパ毎にドライアイス、蓄冷材などをセットする手間が省ける

・荷下ろしを組合員さんが手伝ってくれるので、荷台からの乗り降りが少なく、身体への負担（腰や膝など）が減る
この他にも様々なメリットもデメリットもありますし、これだけではよくわからないこともあると思いますので、実際の班配達を取材し、お伝えしていきます。

人生一〇〇年時代。寿命が八〇歳を超えた現代から、更に二〇年の時間が与えられると言われています。学ぶため、働くために、生まれ育った故郷から離れ、やがて家族や仲間と共に暮らしている、過ごしている今の居場所が第二の故郷。そしてその地で豊かな人生を送るために、人と人とのつながりを持つ地域コミュニティが見直されています。組合員同士のつながりが、与えられた二〇年の糧となるよう、常総生協の共同購入、班配達がきっかけになればと思います。（増本）

『理事会よもやま通信』へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。